（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	はな			
○保護者評価実施期間	2026年1月13日	～	2026年1月31日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	8	（回答者数）	6
○従業者評価実施期間	2026年1月13日	～	2026年1月31日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	9	（回答者数）	6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月13日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの発達の状況を把握し、モニタリングや個別支援計画の作成を行っている。	子どもの発達の状況は普段の支援の中での観察や意図的な関わり等で把握している。参考図書や情報等も活用しながら、職員全体で子どもの様子を把握し、支援を行っている。	今後も子どもの発達の状況をしっかり見極め、それに基づいた支援が行われるようにモニタリング会議等を行っていく。また、研修等も積極的に取り入れ、発達に関する知識を学んでいく。
2	日々行っている行事については、ねらいとテーマを職員一同で決め、それに基づいて行事に取り組んでいる。	日々の行事の中でさまざまな活動や経験ができるよう、また発達年齢に応じた楽しみ方ができるよう、ねらいを定めながら行事を組み立てている。	毎年同じような活動や取り組みになってしまわないよう、しっかりと考え、相談しながら行事の組み立てを行っていく。
3	公共交通機関を使ってのお出かけや、普段のすごしの中で近所の公園や買い物へ出かけることで、地域に根差した生活のイメージを持ち、また地域にも意識を持ってもらうようにしている。	計画的に公共交通機関を取り入れた行事を行い、普段のすごしの中でも長時間の車での外出が多くなりすぎないようにバランスをみながら取り入れている。買い物も近くになるべく行くようにし、地域ですごす一員としての思いを利用者、地域の方共に持ってもらえるよう、意図的に行っている。	今後もさまざまな活動を通して幅広い経験ができ、利用者の力になるような行事を計画し、行っていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用者の保護者同士や、きょうだいの同士の交流については、年1回に行事で集まる機会しかなく、またあまり時間も取れていない。	子どもの様子を伝える機会との思いが強くなってしまい、保護者同士、きょうだい同士の交流に重点を置いた時間設定や組み立てができていない。	時間を多く取ることや、他の機会を設けるなど、保護者同士やきょうだい同士の交流に向けた取り組みや体制作りを考えていく。
2	ご家族に対しての研修会の案内や実施などは行えていない。	事業所で研修会を行うことは現状では難しいと考えている。	適切な研修等の機会があれば、職員も学びの機会を持っていきたい。
3	児童館・児童クラブでの交流の機会が少ない。	児童クラブとの交流は施設としては行えていない。児童館の利用はほとんどできていない。	地域で暮らす一員としての思いを利用者、地域の方々に持ってもらえるよう、地域の場での自然な交流は今後も続けていきたい。